

第3章 八王子の環境の現状と取り組み

第1節 水環境の保全 ― 清らかな流れを求めて ―

1. 水環境の現状

私たちの住む八王子は高尾山や陣馬山などの山々を源流とした数多くの河川や湧水を有する潤いのある豊かな環境に恵まれたまちです。河川や湧水は人々に潤いと安らぎを与えてくれる貴重な財産です。

19年度に下水道整備が完了した結果、河川の水質は大幅に改善され、20年度には測定河川8河川すべてにおいてBOD（生物化学的酸素要求量）（注1）の環境基準（注2）が達成されました。

しかし、昭和40年代からの都市化により雨水の不浸透域の広がりや、農林業をめぐる厳しい経営環境を背景に森林の荒廃・農地の減少などで雨水の地下浸透機能が弱まり、湧水の枯渇や「昔より河川の水が少なくなった」といわれるような状況にもあります。

これまで、地下水のかん養や湧水の保全、そして河川水量の確保を目的として雨水浸透施設の設置補助を制度化し、21年度は補助率を5割から9割に引き上げ、いっそうの雨水浸透の推進に努めてきました。公共下水道接続促進については、支援制度を充実させ、いっそうの接続を進める体制を構築しました。そして、水に関する施策を水循環系の視点からとらえ直し、まちづくりを通じて健全な水循環系の再生に取り組む『八王子市水循環計画』を策定しました。

市内河川 BOD75%水質値（注3）（単位：mg/l）

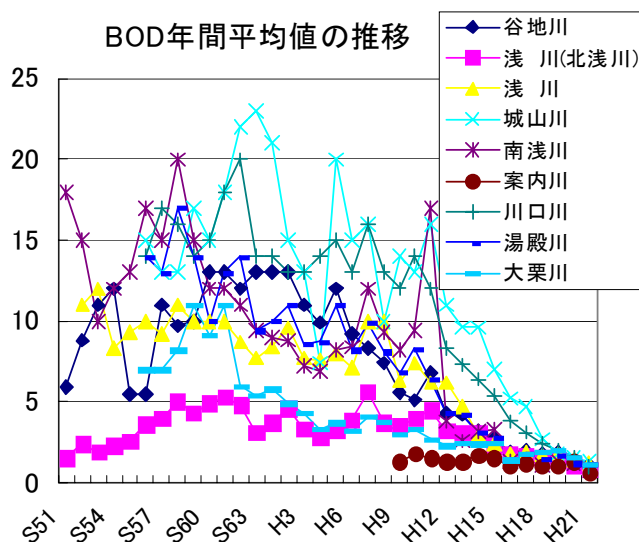
河川名	測定地点	75%水質値	基準達成
谷地川	下田橋下	1.2	○
浅川	中央道北浅川橋	0.8	○
	長沼橋下	1.2	
城山川	五反田橋	1.3	○
南浅川	横川橋	0.9	○
案内川	御室橋	0.7	○
川口川	川口川橋	1.2	○
湯殿川	春日橋	1.3	○
大栗川	東中野橋	1.1	○

○：基準達成、×：基準未達成

（注1） BOD：有機物による河川の汚染度を示すもので、数字が大きいほど汚れが著しい。

（注2） 環境基準：人の健康を保持し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい目標。

（注3） BOD75%水質値：n個の日間平均値を数値の小さいものから並べたとき0.75×n番目にくる数値で、BODの環境基準の達成状況は75%水質値で見る。



2. 水環境の取り組み

(1) 水質改善

市は河川の水質をより良好にするために、下水道への接続促進や浄化槽整備区域の浄化槽の設置促進を含めた生活排水対策に取り組むとともに、工場・事業場の排水指導を行いました。

ア. 生活排水対策の推進

① 下水道への接続促進等

下水道への未接続家屋に対しては戸別訪問による接続促進活動を行いました。また、21年10月から下水道接続支援策を拡充し、補助制度の対象を引き上げると共に補助額を拡大し新たに無利子貸付制度を導入した結果、21年度末の接続率は91.6%となりました。

また、公共下水道整備地区以外の市街化調整区域では、戸別浄化槽の設置促進活動を行い、21年度は17基を設置しました。合併浄化槽の引き取りと併せ、合計で308基の合併浄化槽を市管理としました。

北野処理区の一部は、雨水・汚水を共に処理する合流式下水道となっています。そのため、多量の雨が降った場合には未処理水が河川に流出します。雨水吐口2ヶ所、北野下水処理場2ヶ所で河川放流水の水質検査を実施した結果、すべての箇所で基準値を下回っていることを確認しました。

② 家庭から排出される汚れの削減



小学校での環境学習

市は、「八王子市生活排水対策推進計画」に基づいた市民組織として「八王子に清流を取り戻す市民の会」を設置しています。

21年度は川口川流域を「生活排水対策モデル地区」とし、上川地区でアンケート活動を行い意識調査を行いました。

また、環境フェスティバルやくらしの見直し展、小学校での環境学習などを通して、啓発活動を行いました。

イ. 工場・事業場への対応

市は水質汚濁防止法・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）に基づく届出の事前審査や指導を行い、水質汚濁の未然防止に努めています。また、工場及び事業場への立入検査を実施し、届出の内容、排水処理施設の状況、排水基準の遵守状況を確認しています。

水質検査を伴う立入調査結果（21年度）

立入 事業場数	水質検査 回数	行政措置
65	19	行政指導 5 件
		改善命令 0 件
		排水の一時停止命令 0 件

(2) 水循環の回復

地下水の涵養を図り河川流量の確保をめざし、雨水浸透施設等の設置を進め、健全な水循環を回復する取り組みを進めています。

ア. 公共事業における雨水貯留・雨水浸透対策

道路事業では雨水排水施設を整備するにあたり、地盤の保水機能を確保できる、雨水浸透管、雨水浸透人孔を設置しています。21年度は高尾町、打越町、下恩方町、大和田町七丁目に設置しました。また、歩道部分にも元横山町三丁目など6ヶ所で透水性舗装を行いました。

更に由木中央小学校、横山・恩方中学校、恩方西学童保育所に浸透トレンチを設置しました。



透水性舗装の歩道（桑並木通り）

項目 \ 年度	H19	H20	H21
浸透性舗装面積（㎡）	1,207	2,483	3,072
浸透トレンチ（m） 注4	177	141	153
浸透ます（箇所数）	18	12	14
浸透人孔（基） 注5	2	4	5

（注4）浸透トレンチ：雨水浸透ます等と連結した浸透性の管。雨水を導き、側面及び底面から地中へ浸透させる施設。

（注5）浸透人孔：浸透性のあるマンホール

イ. 雨水浸透施設等設置補助事業

市は健全な水循環に向けて、建物の屋根に降った雨水を地中に浸透させやすくする雨水浸透ますと雨水浸透管（浸透トレンチ）の設置や、雨水を植木や庭への散水に有効利用できる雨水貯留槽の設置に補助をしています。

21年10月から雨水浸透施設の設置に対する補助額を5割から9割に引き上げた結果21年度の設置基数は大幅に増加しました。

項目 \ 年度		H19	H20	H21
雨水浸透施設	浸透ます（基数）	95	188	293
	浸透トレンチ（m）	63.8	24.6	15.5
雨水貯留槽（設置基数）		101	66	82

ウ. 地域と連携した湧水復活事業

横川弁天池周辺を強化地区に指定し、湧水の涵養に取り組んできました。

その結果11軒のご協力により19基の雨水浸透ますを設置できました。



横川弁天池公園（横川町）と湧水

3. 評 価

環境基本計画に掲げた5つの重点取り組みでは、分野ごとに毎年度目標を立て、事業を進めてきました。そこで、その目標に対しての達成度や貢献度の評価結果を3段階の★印で示すとともに、市での内部評価及び環境推進会議での相互評価の内容を公表しています。

ここでは、「水」の分野についての評価結果を掲載しています。

評価：★★★ 大きな成果をあげた

<市の内部評価>

雨水浸透施設の補助事業において補助率を大幅に拡大し設置数が増加したこと、学校における浸透施設の設置や道路の透水性舗装が予定を上回ったことで、地下水のかん養機能が拡大したことは評価できる。しかし、公共下水道の接続促進等は目標に到っておらず、今年度設置された水循環部の体制の中で強力に推進を図ること。水循環計画を策定したので、更なる取り組みを展開されたい。

<環境推進会議での評価>

水の分野は着実に推進されていると評価する。

なお、生物多様性や地域住民の憩いの場の観点などから雨水浸透施設の設置を促進し流量の確保を図るとともに、河川整備にあたっては親水性に富んだ多自然川づくりを進めること。